

事業番号	15 06 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	「探究的な学び」推進事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課			
		実施期間	H30 ～	E-mail	kyogaku @ pref.nagano.lg.jp			

1 現状と課題

変化が激しく予測困難な時代に直面する中、「新たな社会や価値を創造する力」を育成するため、大学や企業等と連携した探究的な学び、多様で新たな学びを推進していく必要がある。

2 事業目的

高校での学びを従来の知識を蓄えることを中心とした学びから、他者と協働した能動的な活動の過程で考察・理解を深めることを中心とする「探究的な学び」に転換していく。その学びの中で、生徒が「知識・技能」とともに「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく身に付けるようにする。生徒が「探究的な学び」を地域や世界の中で深めることで、自己の在り方や社会との関わりについて、地域に根ざしたグローバルな視野で考え、自ら構想したキャリアデザインを実現できるようにする。

3 事業目的を達成するための取組

①VUCAの時代に対応して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成

- ・将来、国際的に活躍するための科学技術関係の探究力を培うため、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定校を支援
- ・高校段階においてデジタル等成長分野を支える人材を育成するため、D Xハイスクールを創出
- ・県立高校において、特色あるカリキュラムを編成し、キャリア形成につながる学びや「主体的・対話的で深い学び」を実現
- ・高校生の進学を支援するため、高大接続改革に係る最新の情報や効果的な実践事例を各校が共有する機会を提供
- ・授業や宿題で著作物を利用できるようにするため、授業目的公衆送信補償金を負担
- ・キャリア教育を推進し、高校生の多様な進路選択を実現するため、就業体験活動の経費支援等を実施

②生徒の「学びたい」を支える、多様な学びの場や学びの選択肢の充実

- ・先進的、先端的な研究開発に取り組む実践校を「未来の学校」として指定し、支援。また、成果を他学校へ普及することで、高校教育の質的向上、多様な学びの場の創造を図る。
- ・優れた指導者のファシリテートのもとで、各校の探究的な学びの質を高めるために、学校の枠を超えて生徒が一同に会して学びの成果を発表し合い、互いに自らの今後の成長の方向性を確認する機会を提供
- ・高校生の芸術文化活動の活性化を図るため、県・支部単位で開催される創作活動成果の発表会や大会等への参加を支援
- ・世界で活躍できる資質・能力を育成するため、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアムにおいて、オンラインを活用した文理横断的な学習プログラムを開発し、A Lネットワーク（高校と外部機関の連携によるアドバンスド・ラーニング・ネットワーク）を拡大
- ・信州に根差したアイデンティティと将来世界で活躍できる高校生を育成するため、「信州つばさプロジェクト」として県企画プログラムや個人留学支援を実施。また、海外留学の促進に向け、ウイングシェアプログラムとして留学報告会等を開催
- ・高校生の豊かな英語コミュニケーション力と異文化理解のため、県立高校等へ外国語指導助手を配置する。
- ・子どもたちの多様な進路選択、興味関心に対応するため、高校生が国際的に活躍する社会人や大学生等と交流するサマースクールの実施を支援する。

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度			R6年度			R7年度			R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	実績	推移	実績	実績	推移			
①	インターンシップ実施校率	%	100	100	→	100	→		100	→		100	達成	インターンシップ実施校率を高めることで、高校生の多様な進路選択を支援するため、令和7年度は100%以上を維持する
②-1	探究的な学びの質を高める大会・コンクール・発表会への参加生徒数	人	458	498	↗	622	↗		500	→		500	達成	探究的な学びの質を高める大会等への参加者を高めていくため、令和7年度は500人以上を目標とする
②-2	海外留学に向けた啓発イベント参加者数	人	205	244	↗	284	↗		220	→		220	達成	海外留学を促進するための説明会等を実施し、総合5か年計画に掲げる海外への留学者率を高めていくため、令和7年度は220人を目標とする。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	学校の教育活動全般に対する生徒(高校生)の満足度	%	2023 (R5)	84.4	2024 (R6)	85.2	2025 (R7)	85.0	2027 (R9)	84.3
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	☆高校生の海外への留学者率	%	2023 (R5)	1.2	2024 (R6)	1.7	2025 (R7)	1.7	2027 (R9)	2.0
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	公立高校現役生で進学希望者のうち進学した者の割合	%	2023 (R5)	92.6	2024 (R6)	92.8	2025 (R7)	91.5	2027 (R9)	94.9
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	公立高校卒業後就職希望者の就職内定率	%	2023 (R5)	98.6	2024 (R6)	98.8	2025 (R7)	98.4	2027 (R9)	99.5

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	732,914	△ 151,151	581,763	417,981	535,229	13.0
R6年度	0	633,362	△ 48,899	584,463	380,881	525,905	13.0
R5年度	0	436,720	6,967	443,687	354,367	369,531	13.0

事業番号	15 06 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検			
事業名	「探究的な学び」推進事業費			部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課	

7 主な取組実績と成果

①VUCAの時代に対応して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成

・SSH指定校（飯山、屋代）及び認定校（諏訪清陵）の3校に1名ずつコーディネーターを配置し、高大接続や地域連携等の効率化を行った。また、野沢北高校のSSH指定に向けた準備を進め、令和8年度の新規採択につなげた。県立高校では通算6校目の新規採択となり、理系人材の育成に向けた県内の教育基盤を拡充した。

・文部科学省「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」に県立高校15校が採択され、情報・数理・データサイエンス・AI活用等の学びを推進するとともに、デジタルを活用した課外活動や授業スペースの整備を行った。

・「主体的・対話的で深い学び」（「探究的な学び」）を実現する教育課程の編成を行うため、必要な非常勤講師を75校198人、学習支援員を51校にのべ69名を配置した。

・高大接続改革への理解を深め、効果的な取組・実践事例等の共有及び意見交換等を行うため、全県の進路指導主事等による研究協議会を実施したほか、県立高校28校に入試問題研究用書籍の購入と教員研修セミナーの受講を支援した。

・県立学校の生徒39,324人分、17,283,981円を支払い、授業や宿題で著作物を利用できる環境を整備した。

・キャリア・チャレンジ・プログラムによるインターンシップ（就業体験活動）の保険料を補助（5,665人が利用）、また、定時制・通信制生徒のためのキャリアチャレンジバスツアーを4地区で実施（10校49名の生徒が参加）

②生徒の「学びたい」を支える、多様な学びの場や学びの選択肢の充実

・探究的な学びを核に、生徒の主体性・協働性・キャリアデザイン力の育成、グローバルな視野の醸成及び地域連携の推進をテーマとする5校を実践校に指定し、研究開発と成果の普及に取り組んだ。

・各校の探究的な学びの質を高めるため、「探求プラットフォーム」事業において、「マイプロ長野県Summit」として生徒が学校の枠を越えて一同に会して学びの成果を発表し合う場を提供、17校、95人が参加した。

・高校生の芸術文化活動の活性化については、県及び支部単位における大会や発表会の実施に加え、全国高等学校総合文化祭への出場校に対する支援を行い、演劇部門において全国優勝を達成した。

・WWLコンソーシアム構築支援事業では、18校の参画により学校間連携が進み、オンライン等を活用することで、希望する高校生が文理横断的で高度な学びを享受できる環境が広がった。

・県内高校生の海外留学への機運醸成を図るため、教員・保護者も対象とした、県が企画する留学支援事業「信州つばさプロジェクト」参加者による留学体験報告会（ウイングシェア）や海外大学生と対話する留学フェアを開催した。「信州つばさプロジェクト」県企画4コース計100名（カンボジア・ベトナム、台湾、韓国、アメリカ）個人留学15名の海外留学を支援した。

・高校生の豊かな英語コミュニケーション力と異文化理解のため、県立高校等へ52名の外国語指導助手を配置（令和6年度から9名増員）するとともに、研修会等を通して効果的な外国語指導助手の活用について推進した。

・高校生の多様な進路選択や海外留学の機運醸成を図るとともに、県内地域との連携により交流人口の増加や観光振興の担い手育成に資する学びの場の提供として実施されるサマースクールの開催を支援した（山ノ内町、小布施町、伊那市で実施し、高校生84名が参加）。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	インターンシップ実施校率	R6年度推移	→	R7年度推移	→	達成状況	達成
探究的な学びが浸透するにつれ、地域連携等が活発化していること。各校でのキャリア教育の充実があることから、実施校率100%の継続につながっている。							
指標②-1	探究的な学びの質を高める大会・コンクール・発表会への参加生徒数	R6年度推移	↗	R7年度推移	↗	達成状況	達成
探究的なイベント実施によって、県内の高校における探究的な取組が充実してきたこと。							
指標②-2	海外留学に向けた啓発イベント参加者数	R6年度推移	↗	R7年度推移	↗	達成状況	達成
県内高校生の海外留学に対する興味関心が増しており、さらに海外留学支援事業に対する認知が拡大していること。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

指標① 今後も全高校でインターンシップを実施していくため、引き続きインターンシップ受入れ企業を拡大していくことが重要。

指標②-1 マイプロジェクトアワード長野県サミットや探Qフェスにおける生徒発表の内容は年々学びの深まりが見られる。また、発表会への生徒・教員の参加がさらに増加するように実施形態や会場、時期などについて検討を重ねる必要がある。

指標②-2 サマースクールを補助金事業として3箇所で開催し、参加者が増加した。一方、事業者によっては集客に苦戦し、予定数に達しなかった。

(2) 事業改善の方策

指標① インターンシップの受入れ企業の拡大のため、経済 4 団体への要請を実施。また、インターンシップの支援としてこれからもインターンシップ参加に伴う保険料の補助を検討する。

指標②-1 教員が生徒へより参加を促しやすくなるよう、教員の悩みや困り感に寄り添ったプログラムを計画・実施する。また、オンラインやSNS等を積極的に活用することで、多忙である生徒が探究学習の進め方について相談しやすい場を創出していく。

指標②-2 引き続き県内で実施される複数のサマースクールを生徒へ案内していくことで、参加者数の増加を図る。

指標②-2 信州つばさプロジェクト県企画におけるコース設定や研修内容について、生徒がより主体的に取り組むことができるプログラムの構築をすることで、海外支援事業に対する興味関心の更なる向上を図る。

事業番号	15 06 01	細事業一覧（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検			
事業名	「探究的な学び」推進事業費			部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課	

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	科学教育推進事業		7,377 千円	13,355 千円	13,650 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	科学エキスパート講座	直接	ものづくり、イノベーションを支え、世界で活躍できる科学技術人材を育成するために、物理・化学・生物・地学・情報・数学の大学教員による実力養成講座を実施し、自然科学等を学ぶことの面白さを伝える。また、各種科学コンテスト参加者を増やし、勝ち抜いていくための実力を養成する。		
			実力養成講座5分野（物理、化学、生物、地学、情報）に各10名程度参加		
2	サイエンス・アソシエーション・プロジェクト	直接	ものづくりやそれにつながる基礎研究に対する生徒の興味喚起や視野拡大、また、国際性の涵養や卓越性の伸長を図り、世界で活躍できるグローバル人材を育成するため、県立高校が企画して実施する、大学・研究機関・企業と連携して行う科学技術に関する国内研修を募集し経費を助成する。		
			上限300千円／校、23件		
3	信州サイエンスキャンプ	直接	理数系科目への興味・関心を高め、将来地元産業を支える科学技術系人材を育成するため、自然科学系部活動、理数科等の生徒同士の交流を通して、切磋琢磨できる場を開催する。		
			信州サイエンステクノロジーコンテスト、課題研究研修会、信州サイエンスミーティングを各1回開催		
4	スーパーサイエンスハイスクール指定校支援事業	直接	生徒の科学的能力を培い、将来、国際的に活躍する科学技術関係人材を育成するため、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定校に対する事業支援と指導を実施する。		
			指定校：飯山高校、屋代高校・附属中、諏訪清陵高校・附属中		
5	信州みらいクリエイターズ育成事業	直接 委託	プログラミング教育を含む他の教員を指導できる実力を持つ教員を育成するための、リーダー（フェロー）養成研修を実施する。		
			信州のものづくりを支える人材養成を図るため、小中学生を対象に「信州Makers教室」「信州Makersキャンプ」の開催を民間事業者に委託する。		
			信州Makers教室2地区開催、信州Makersキャンプ1回、Makersフェロープログラム16回		

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	県立高等学校D X加速化推進事業	— 千円	136,523 千円	93,316 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	県立高等学校D X加速化推進事業 （D Xハイスクール）	直接	高校段階においてデジタル等成長分野を支える人材を育成するため、D Xハイスクールを創出し、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校の環境整備を行う。	
			県立高校15校	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	カリキュラム編成支援事業	84,638 千円	84,019 千円	78,042 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	カリキュラム編成支援事業	直接	県立高校において、特色あるカリキュラムを編成し、キャリア形成につながる学びや「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、非常勤講師又は学習支援員を配置する。 非常勤講師75校、学習支援員51校に配置	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
4	学力向上推進事業	8,487 千円	7,220 千円	5,495 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	教育課程改善推進事業	直接	文部科学省主催の各教科担当指導主事連絡・研究協議会等への参加による情報収集及び伝達を行う。 各教科担当指導主事連絡・研究協議会1回、教育課程研究協議会4地区各1回	
2	進路指導力向上支援事業	直接	グローバル化、情報化の進展や生産年齢人口の急減などの社会構造の急激な変化にも対応できる「学力の3要素」の育成と、生徒一人ひとりの進路実現を図るための各校の取組を支援する。 進路指導研究協議会開催、新入試問題対策支援、入試情報システム18校導入	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
5	県立高校における長期入院生徒への学習支援事業	132 千円	72 千円	26 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	県立高校における長期入院生徒への学習支援事業	直接	遠隔教育システムやZoom等のICT機器を活用し、教室と接続した同時双方向の遠隔授業や個人学習等を実施することで、長期入院中の生徒の学習機会を保障し、学校生活への復帰に向けた学習支援を行う ICT機器のレンタル、学習支援	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
6	授業目的公衆送信補償金	17,740 千円	17,595 千円	17,284 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	授業目的公衆送信補償金	直接	授業や宿題で著作物の利用を無許諾・有償で利用できるようにするため、学校設置者として長野県教育委員会が、県立学校の補償金を負担する。 県立中学生480人分、県立高校生38,844人分の補償金を負担	

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
7	キャリア教育推進事業		2,975 千円	2,747 千円	3,148 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	キャリアデザイン力育成事業	直接	生涯にわたるキャリアデザイン力を育成し、発達段階に応じた社会的・職業的自立を図るために、就業体験活動等の経費を負担する。 キャリア・チャレンジ・プログラム：損害賠償保険補助5,665名分		
2	高等学校教科競技大会派遣事業	交付金	教科競技の振興を図ることで専門性を高めた学びを実現するため、専門高校の全国大会等への参加に係る経費を補助する。 交付先：高等学校教科競技大会に参加する団体 補助対象校：延べ34校、補助対象生徒数：延べ111人		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
8	特色ある学科設置事業		4,936 千円	4,357 千円	2,090 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県立高校「未来の学校」（第Ⅱ期）構築事業	直接	「第4次長野県教育振興基本計画」の「第3編 これからの長野県教育のあり方 第2 政策」や、「特色ある県立高校づくり懇談会」の方向性を踏まえて、先進的・先端的な取組を行う実践校を指定し、本県の高校教育の質的向上、教育課題の解決及び次の時代を見据えた新たな学びの場の創造を図り、成果を県下の高校へ普及させる。 「未来の学校（第Ⅱ期）」実践校の研究支援（5校）、成果の普及に向けた報告会		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
9	「探究プラットフォーム」&「信州学」推進事業		8,615 千円	8,325 千円	8,407 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	「信州学」推進事業	直接	地域の中にある課題を発見、解決する能力の育成を図るとともに、信州に根差した確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野を育成するために、地域に根差した探究的な学びの推進を支援する。 全県立高校101校（課程）で信州学を実施		
2	「探究プラットフォーム」事業	委託	優れた指導者のファシリテートのもと、各校の探究的な学びの質を高めるために、学校の枠を超えて生徒が一同に会して学びの成果を発表し合い、互いに自らの今後の成長の方向性を確認する機会を提供する。 スタートアッププログラム（配信編、相談編）、中間相談報告会、伴走者フォーラム、マイプロ長野県サミット各1回開催		
3	高校生による中学生の主体的な進路選択支援事業	委託	中学生の進路選択の理解を深めるため、高校生等が企画運営する高校の取組を発信する合同説明会の開催を支援する。 北信、東信、南信、諏訪、松本の5地区と、オンライン（全県）で実施		

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
10	学校芸術文化振興事業費	19,435 千円	15,889 千円	18,982 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	長野県高等学校文化・芸術フェスティバル	負担金	高校生の芸術文化活動の活性化を図るため、県・支部単位で開催される創作活動成果の発表会について、開催経費の一部を負担する。 交付先：県高等学校文化連盟 県大会・支部大会で延べ約8,000人を支援	
2	高等学校文化振興事業（大会生徒派遣事業）	交付金	高校生の文化活動の、より高いレベルでの成果発表を支援するため、全国大会、ブロック大会に出場する生徒の参加経費の一部を補助する。 交付先：県高等学校文化連盟 全国大会（12大会）、ブロック大会（5大会）への参加支援	
3	高等学校芸術文化鑑賞事業	直接	定時制・通信制の高校、小規模校が芸術文化鑑賞に触れる機会を確保するため、学校行事として行う芸術文化鑑賞に関する公演料と交通費の一部を助成する。 2,989人を支援	
4	2018信州総文祭を次世代につなぐ文化部活性化事業	負担金	2018信州総文祭開催を契機にレベルアップした文化部活動が継続的に発展するとともに、その成果を普及させるために、技術講習会等の実施経費を負担する。 負担先：県高等学校文化連盟の該当する専門部 講習会のべ100回	
5	ウィーン楽友協会との姉妹提携事業	直接	小諸高校音楽科生徒から世界レベルの音楽技術を習得した音楽家を輩出するため、ウィーン楽友協会との姉妹提携を活かし、一流の音楽家による実技指導等の機会を提供する。 小諸高校生18名をウィーンに派遣	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
11	グローバル人材育成事業	214,112 千円	235,803 千円	294,789 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業	直接	WWL事業のカリキュラム開発拠点校、共同実施校を中心に研究開発した、イノベティブなグローバル人材育成に資する文理横断的な学習プログラム（信州グローバル講座等）をデジタルコンテンツ化し、県内の高校生が自宅等学校以外でも受講できる仕組みを整備するとともに、受講した高度な学びについて、単位認定の在り方を調査研究する。 拠点校（上田）、共同実施校（松本県ケ丘）、連携校16校 ポータルサイトの整備、信州グローバル講座の開催（6回）	
2	「海外での学び」推進事業（信州つばさプロジェクト）	直接 負担金 補助金	高校生の留学気運の向上を図るため、留学フェアの開催や事業の広報活動等を行う。 高校生の海外留学の「最初の一步」を支援するため、教育委員会と連携協定を結んでいる台湾をはじめ、韓国、カンボジア、アメリカ等で、県が企画する短期留学プログラムを実施する。 高校生の留学者数を倍増させるため、個人留学に対して、行先と期間に応じて経費の一部を補助する。補助金交付先：県内の高校生 県企画4コース（100名）、個人企画（短期・長期15名）	
3	高校生海外研修事業	補助金	高校生の海外大学進学を促進させるため、国費による学校単位の留学支援を行う。 補助金交付先：県内の高校生 令和7年度交付申請0件	
4	信州英語教育ルネサンス事業	直接	英語4技能をバランスよく育成するため、小・中・高校の英語教員を対象にした研修やパフォーマンステストの実践を研究する協力校を募集し、モデル授業を普及 研究協力校、教員研修（義務3回実施、高校8回実施）	
5	児童生徒の英語力向上支援事業	直接 委託	学んだ英語を活用して、他者と協働しながらコミュニケーションを行うことを通して、英語力や学習に対する意欲を高めるため、国内で海外留学体験機会を創出 委託先：民間企業・団体 中学生向け1日海外留学体験企画1回	
6	外国語指導助手（ALT）配置事業	直接 委託 負担金	高校生の豊かな英語コミュニケーション力と異文化理解のため、県立高校等へ外国語指導助手を配置する。 高校生の豊かな英語コミュニケーション力と異文化理解のため、県立高校等への外国語指導助手の配置を業務委託する。委託先：民間事業者 ALT52名を配置	
7	サマースクールを活用した多様な学びの機会創出事業	補助金	子どもたちの多様な進路選択、興味関心に対応するため、高校生が国際的に活躍する社会人や大学生等と交流するサマースクールの実施を支援する。 サマースクール実施3か所（小布施町、山ノ内町、伊那市）	